

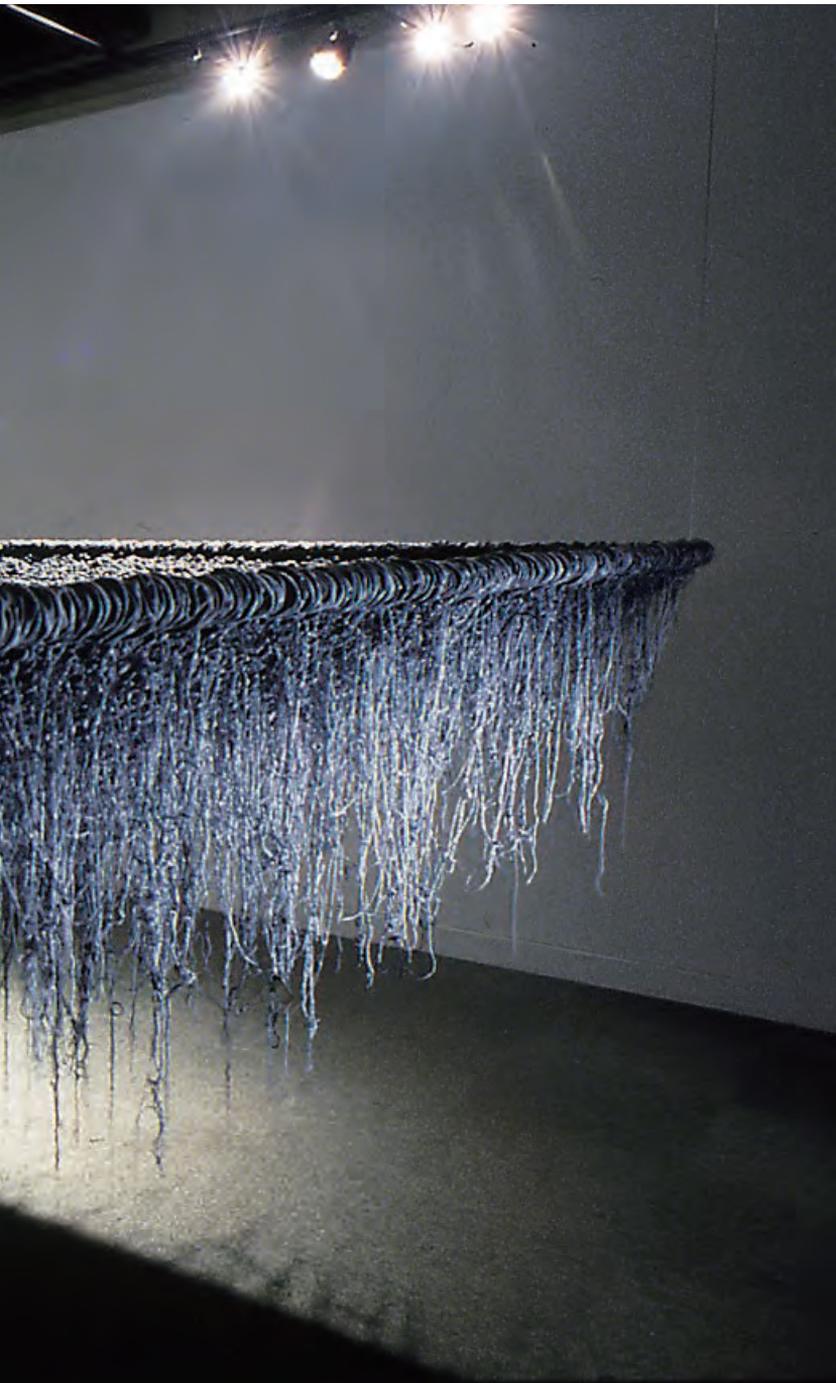
布にひそむ表情をひきだす

小野山和代

私は既成の布を素材にして制作している。1992～2000年頃までは「織布のたてとよこの繊維をひっぱる」という手法によって現れた皺や襞を生かし、作品制作を続けた。布の重なりや陰影、テクスチャーを大切に、形態の純粹性を追求するため、布の様々な表情を生かそうとする方向で制作してきた。

様々な織布を用いて「たて、よこの繊維をひっぱる」試みを幾度と重ねるうち、染・織の仕事にあまり用いない「化学繊維を使用すればどのような表情になるのか?」と考えるようになった。近年、生活スタイルの急激な変化にともない、われわれの住空間はあらゆる繊維により演出されている。難燃、消臭、防湿、防水、撥水、発光などの効果のある、人と環境に配慮した繊維が開発されている。化学繊維の特質を用い、布の表現の可能性の広がり、ファッションにも多大な影響を与えている。2000年以降、化学繊維の特質を活用することで、繊維をひく行為、皺、襞が一面にあらわれ、作品にあらたな可能性が生まれたのではと思う。





原因と結果が同時にあらわれる

方丈の庭 The Garden for Meditation

270 (h) × 270 (w) × 150 (d) cm
綿麻 mixed cotton and hemp cloth
繊維を引く pulling

撮影 / 畠山 崇 HTAKEYAMA Takashi



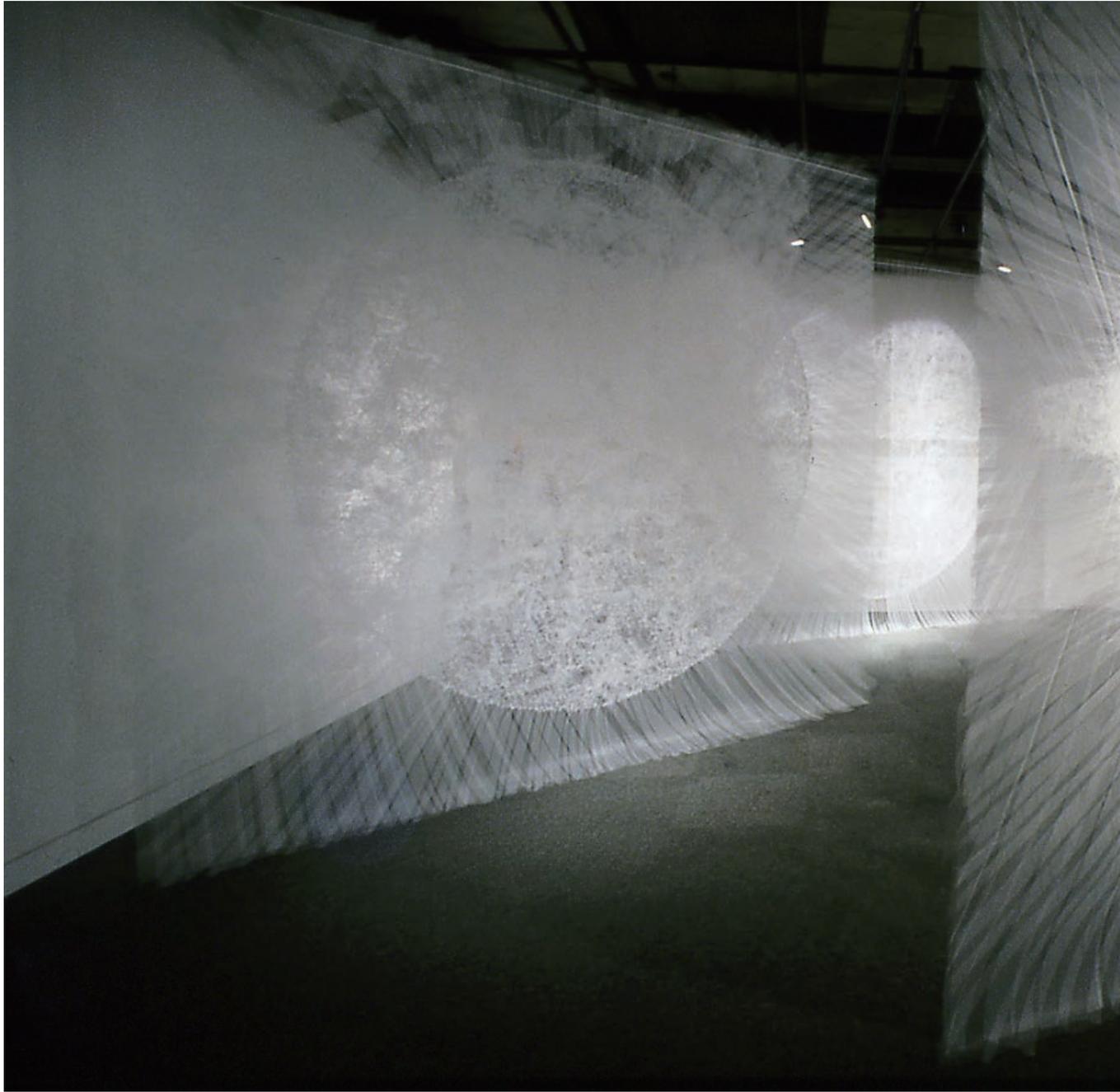
人はみな行き交う

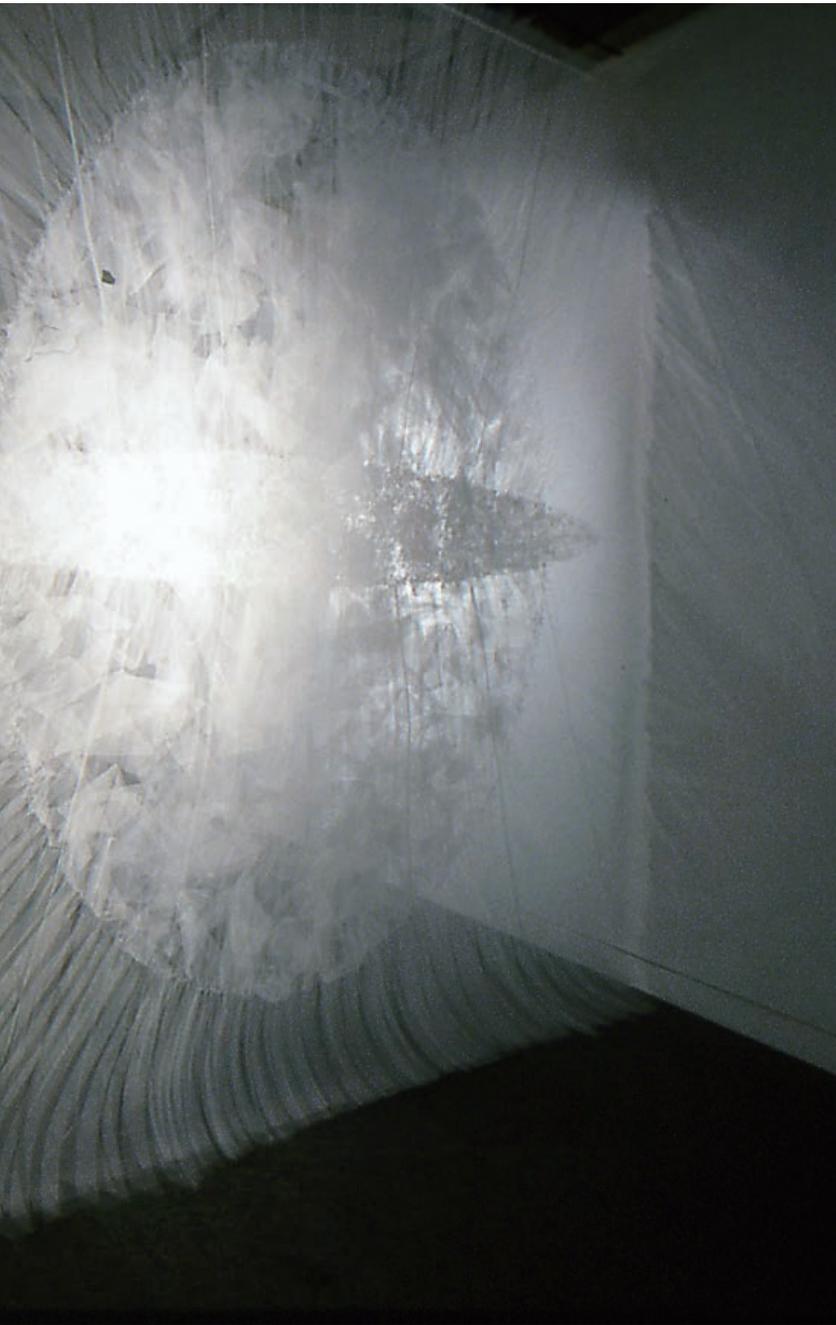


CROSS

1400 (h) × 5800 (w) × 5720 (d) cm
綿麻 mixed cotton and hemp cloth
繊維を引く pulling

撮影 / 末正真礼生 SUEMASA Mareo





あわいにたたずむ

HIKARI-KA

@ 290 (h) × 290 (w) cm 4枚組 4pieces

ポリエステル布 polyester

繊維を引く、布を折りたたむ pulling, folding

撮影／畠山 崇 HATAKEYAMA Takashi



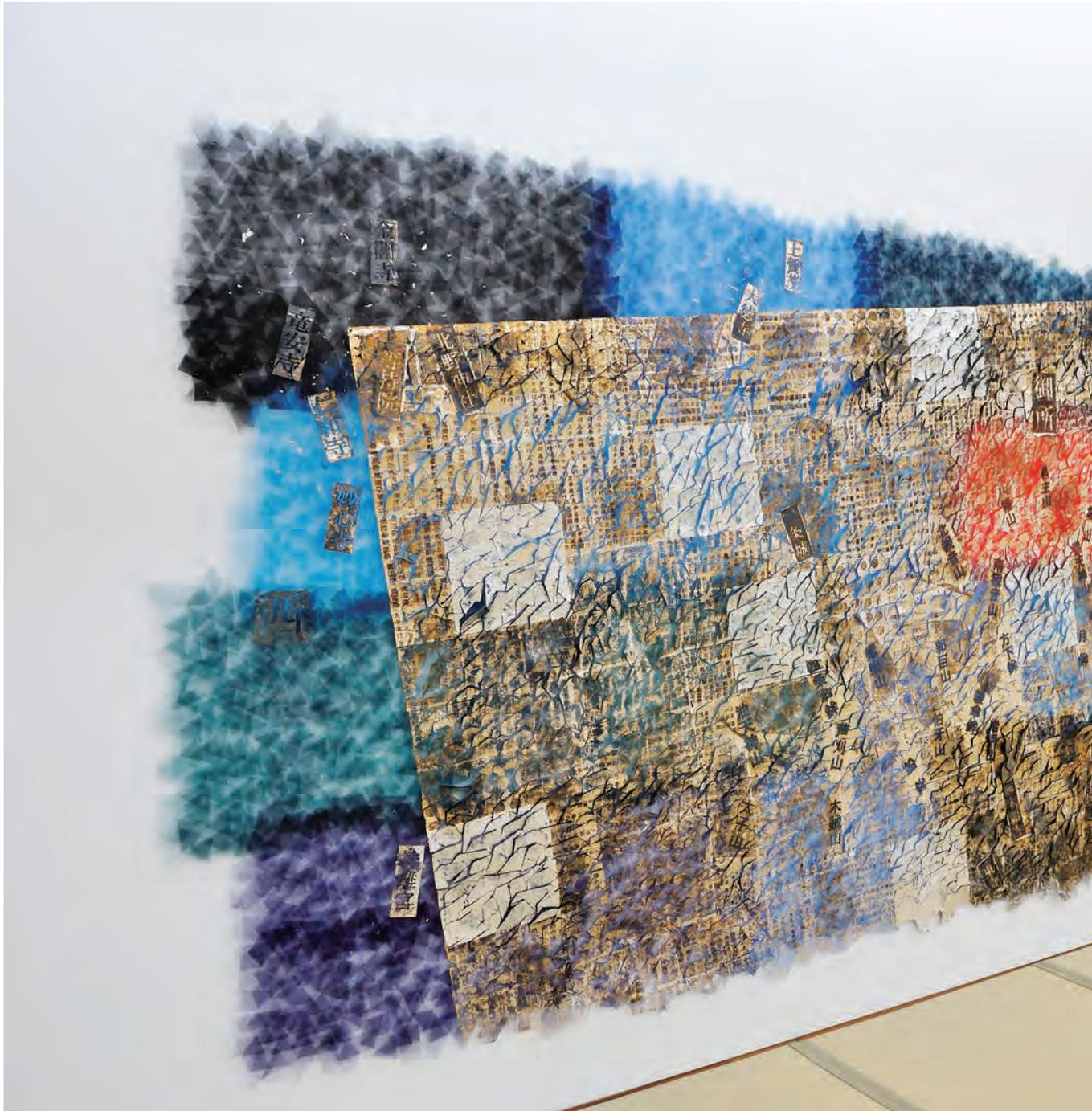


布裂がたくさんあった
「もったいない!」

「re-」

270 (h) × 300 (w) × 30cm (d) cm
ポリエステル布 polyester
繊維を引く pulling

撮影 / 末正真礼生 SUEMASA Mareo





二月堂焼経に魅いられて

洛中洛外圖

190 (h) × 270 (w) cm 2枚組 2pieces
ポリエステル布、銀箔 polyester, silver leaf
布を折りたたむ、腐食 folding, corrode

撮影 / 矢野 誠 YANO Makoto





折り折る

手前
ORIKATA

3500 (h) × 155 (w) cm 2枚組 2pieces
ポリエステル polyester
布を折りたたむ folding

左壁
ORIKATA

200 (h) × 300 (w)
ポリエステル polyester
布を折りたたむ folding
染色 dyeing

撮影／矢野 誠 YANO Makoto



あめつちのぬの



ORIKATA

350 (h) × 180 (w) 2枚組 2pieces
ポリエステル polyester
布を折りたたむ folding
染色 dyeing

撮影 / 矢野 誠 YANO Makoto

Constructed Textiles 考 「しみしわたるみ」

人間の皮膚に一番近い存在の衣服は第二の皮膚といわれる。それは、衣服を皮膚や身体の拡張とするものというカナダ出身の英文学者、メディア・文明批評家、マーシャル・マクルーハンに代表される考え方で、この観点にたてば衣服は「第二の身体・皮膚」ということができる。人の皮膚に、肌荒れ、皮膚病、切り傷、やけどなどの傷害や、加齢とともに、しみ、しわ、たるみがあらわれるように、衣服にも、染み、痛み、ほつれ、しわなどがあらわれる。両方ともマイナスのイメージが漂い、「悪」とされ、避けたい現象である。

白いシャツもいずれは黄ばむ。色彩豊かな布もいずれは色あせる。美しい人もいずれは老いがおとずれ皺だらけになる。この世のものは無常でうつろいゆく。滅びがあるから、人は若々しい表情を好み、美しく老いたいと望む。ところが、しみ、しわ、たるみは、染織の意匠や布の表情、美しさと深い関係がある。しみ、しわ、たるみは、染めあじ、しば、プリーツ、ギャザー、ドレープなどとなって、繊維や布の表情をあらわす。しみ、しわ、たるみは、繊維の仕事をするものとして常に意識することがらである。

糸や布によって表情をあらわす造形技法は、染めや織り以外に、interlacing, needlework などがあり、それらを総称する Constructed Textiles (構成テキスタイル)は、欧米ではテキスタイル造形の一大ジャンルをあらわす基礎用語となっているが、日本ではほとんど用いられず、その翻訳語も定着していない。この語を知らずして日本と欧米の染織文化のちがいを語ることができず、また、立体化、スペース化へと鮮烈な動きを示した現代染織造形の基盤となっているものを構造的にとらえることもできないのではと思う。私はそう考え Constructed Textiles を体系的にとらえるべく、その技法の分類・解説などを試みてきた。

自身の手法でもある Constructed Textiles の分類を簡潔に記し、現代において Constructed Textiles の展開が顕著にみられる分野として、Small Works (小作品)についての考察と自作をまとめた。

CONSTRUCTED TEXTILES の体系的分類

Fiber structure (繊維の構成)

Interlacing (インタレーシング): felting (絡み), coiling (巻き), knotting (結び), knitting (編み), braiding (組み), weaving (織り), basketry (バスケットリー), lacework (レースワーク), beadwork (ビーズワーク)

Cloth structure (布の構成)

Needlework (ニードルワーク): stitching (ステッチ), appliqué (アププリケ), quilting (キルティング), patchwork (パッチワーク), assemblage (アサンブラージュ)

Cloth processing (布の加工)

Shaping cloth (布の変形): pleat (細長い折襷), drape (優美な襷), gather (縫集めた襷), smocking (刺繍襷), shirring (縫縮めた飾り襷), frill (飾り縁襷), pinching (つまみ襷), shibori (絞り)

Transforming cloth (布の変容): singeing (焼く), cutting (切る), melting (溶かす), tearing (破る) etc

Small Works (小作品)

繊維、布、ゴム、プラスチックなどによる柔らかな彫刻 (soft sculpture) が、戦後の現代美術の世界で盛んになった。作品の傾向は現代美術の動向にあわせ、立体へ、スペースへと多様な展開をみせるようになった。一方、染織分野では1960年代以降、欧米を中心に新しい繊維造形 (ファイバー・ワーク) による創作活動がおこり、企画展や個展が開催されてきた。そのような繊維造形の興隆に呼応するように、小作品の公募展や企画展が、1960年代頃から世界の各地で開催されるようになった。

小作品の魅力は、作者の凝縮された感性が表現され、繊維の繊細で柔軟な素材と構成技法が存分に生かされるところにあるだろう。小作品は大きさにおいてインパクトを与えることはできないが、ただ大きな作品の縮小版としてあるわけではない。一部の工芸品に見られるような、緻密さを競うのでもなく、繊維には、柔軟性、変容性、密度などに繊細な特質があり、作者それぞれの小宇宙が、小作品ならではの世界に鮮明に反映される。それは、茶室の小さな空間に自然を感じたり、茶道具に景色を見立てたりといったことに近いような感覚もある。

小作品は作者の感性、観念、センスまでが見てとれるのはもちろんだが、日本の作品は欧米の作品と比較して、その造形のアプローチに違いがあるようだ。繊維の物性そのものを造形の主題とする表現のあり方は、日本の作品に顕著で、欧米の作家の社会的なテーマやコンセプトをかたちにする表現とは異質であるように思われる。「もったいない」という言葉があるが、「もったいない」とは、ものを節約する、むだにしないという意味で、この「勿体」というのはモノの「まことのかたち」をさし、モノの本質が発揮されないことを惜しむ気持ちを「もったいない」という。この「もったいない」の生活哲学が日本の作品に凝縮されているようで、また、日本人の造形思考の特質であるように思われる。

小さいものはより接近して見るので、より皮膚感覚に密接となる。そこに遠くで見るよりも近くで見る方がまさっているととらえる「ちかまさり」の感性が発揮され、小作品には繊維素材や Constructed Textiles の本領が存分にかされるのではと思う。

美術界全体の沈滞ムード、財政事情、価値観の多様化など諸問題を抱え、国際展が衰退傾向にあるなか、小作品は大作とはひと味違った新しい造形分野を確立している。糸や布を表現媒体とする「ちひさきもの」は、さまざまな刺激を受けながら、そしてスタイルを変えながらこれからも続くことだろう。

「pulling」シリーズ



A



B



C

A
双頭の鷲 double-headed eagle

9 (h) × 25 (w) × 10 (d) cm
綿麻 mixed cotton and hemp cloth
繊維を引く pulling

B
一角の獣 unicorn

10 (h) × 8 (w) × 8 (d) cm
綿麻 mixed cotton and hemp cloth

C
双頭の鷲 double-headed eagle

9 (h) × 20 (w) × 12 (d) cm
綿麻 mixed cotton and hemp cloth
繊維を引く pulling



D

D
ground 2

25 (h) × 25 (w) × 25 (d) cm
綿麻 mixed cotton and hemp cloth
繊維を引く pulling

「collection-KA」シリーズ



A



B

A
collection-KA

6 (h) × 20 (w) × 20 (d) cm
ポリプロピレン polypropylene
熱処理 heat setting

B
collection-KA

6 (h) × 12 (w) × 12 (d) cm
ポリプロピレン polypropylene
熱処理 heat setting



C



D

C
collection-KA

15 (h) × 25 (w) × 25 (d) cm
ポリプロピレン polypropylene
熱処理 heat setting

D
collection-KA

8 (h) × 13 (w) × 13 (d) cm
ポリプロピレン polypropylene
熱処理 heat setting

「re-」シリーズ



A



B



C

A
「re-」

8 (h) × 11 (w) × 10 (d) cm
ポリエステル布、金箔 polyester, gold leaf
組み braiding

B
「re-」

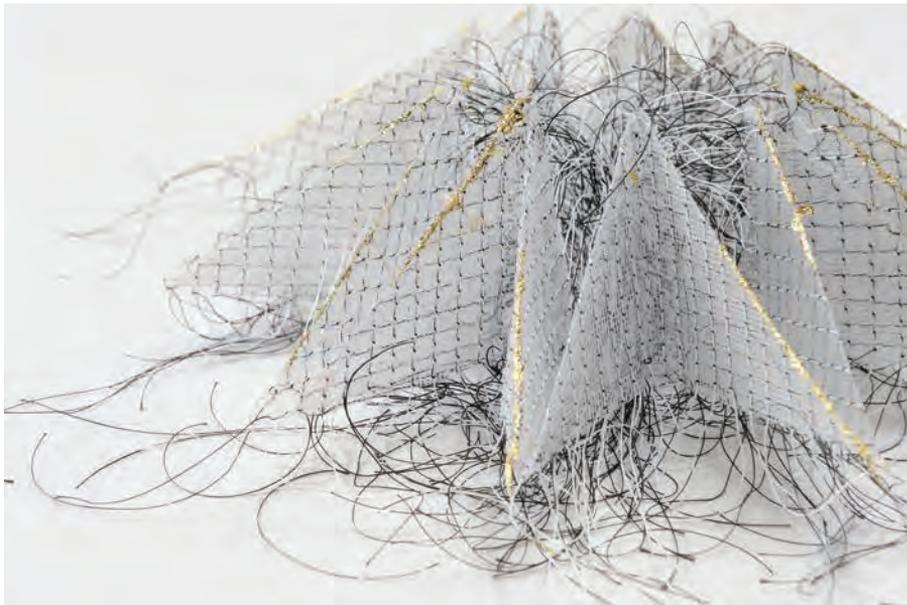
12 (h) × 12 (w) × 12 (d) cm
ポリエステル布、金箔 polyester, gold leaf
折りたたむ folding

C
「re-」

12 (h) × 12 (w) × 12 (d) cm
ポリエステル布、銀箔 polyester, silver leaf
折りたたむ folding



D



E

D
「re-」

12 (h) × 12 (w) × 12 (d) cm
ポリエステル布 polyester
ミシステイッチ machine stitching
折りたたむ folding

E
「re-」

12 (h) × 12 (w) × 12 (d) cm
ポリエステル布、金箔 polyester, gold leaf
ミシステイッチ machine stitching
折りたたむ folding